

井戸端 市民通信

月刊

読者のみなさんのページです。
17ページに掲載している広報ク
イズの答えと一緒に、気ままな
ひとこと、ちょっと言いたいひ
とことを、お待ちしております。

読者の伝言板

- 東北関東大震災は、地震、津波、原発と未曾有の災害でした。東北に住む一人としてなにかお手伝いをと多少の救済物資と義援金をお届けしました。心からみなさんの生きる努力を念じています(鎌田裕子さん 82歳・手形)
- まだまだ寒い日もあります。わが家の庭にもフキノトウ、フクジュソウ、オオイヌノフグリが咲きました。今回の大震災の被災地に友人が何かかいますが、もし被災地に花が咲いたら、それは希望の象徴だと伝えました。1日も早い復興を願っています(アメッコさん 36歳・山王)
- 4月1日から竿燈観覧席の団体予約が始まるそうですが、開催されるころには地震で被災されたかたがふだんどおり生活に戻れていることを願っています。素人的な考えですが、竿燈祭りに招待したり、向こうに行って演技を見てもらうことで明るい気持ちになつてもらえたらな...と思えます(めぐみさん 37歳・旭南)
- この度の地震のニュースを見るたびに心が痛みます。東北の中で比較的被害が少ない秋田。ありがたいですが、東北のみなさんのことを考えると今こそ何かがんばる、協力しないと。とりあえず、身近なごみの減量、節電、買いだめをしないこと...やってみます(ひまわりさん 30歳・飯島)
- 昨日、ケーキ屋で東北地方太平洋沖地震の被災地にいるかたへの募金箱を見つけたので募金をしました。私にできることは節電と募金くらいですが、少しでも役に立つてくれればいいと思います(浜崎ちゃん 15歳・南通)
- 地震で大変な事になりました。私は何もできませんが、今できることをしたいと思いました。おこづかいの中から少しですが募金したいと思えます(悠さん 14歳・仁井田)
- 私の家の玄関から桜の木が見えます。4月、満開の桜の花が咲くことを楽しみにしています。昔、生家の周りにも桜の木が美しく咲いていました。心が癒されます(春に咲く桜さん 53歳・河辺)

地域の話 おしえて!!

新屋扇町などに雄物川の水害標識を設置 町がまるごとハザードマップに

「昭和22年ころの洪水では、この辺りもひどく浸水した記憶があるなあ」。新屋駅前町内会の相原昭蔵会長と、隣接する新屋中表町内会の小玉隆太郎会長が、新屋駅周辺の電柱に張られた標識を見ながら話していました。雄物川の氾濫による浸水の深さや避難施設の名前が書かれたこの標識は、市が各家庭に配布した「秋田市災害ハザードマップ」の情報をまちなかに表示するため、3月中旬に国土交通省秋田河川国道事務所と市が連携して設置したものです。マップではどちらの町内も1㍍～5㍍の浸水が予想されていて、自主防災組織が中心となり災害に備えています。日頃から街角で目にすることで洪水への意識がより高まりますね。

標識について詳しくは、防災安全対策課へどうぞ。
☎(866)2021



「分かりやすく、いいね」



おしゃべりかわらばん



岩見三内児童室を利用して
いる落合沙都
さん(岩見三内
小6年)

みんなで仲良く

授業が終わってからバスケットボール部の練習が始まるまで、友だちと学校で過ごす場所が出来てうれしいです。みんなが自分より年下の子を可愛がっているの、学年が違っても一緒に楽しく遊んでいるよ！



3月31日、被災地の避難所運営業務を支援するため、
気仙沼市、南三陸町、多賀城市などへ市職員10人を
派遣しました(4月末まで延べ145人を派遣予定)

●わが家にはイヌが3匹います。毎年広報あきたに狂犬病予防注射のお知らせが載ると春が来たことを感じます。今年も3匹連れて行きます(さっちゃんママさん 48歳・土崎)
●0歳と3歳の子どもがいるのでユービスとカワベリアにも連れて行ってみたいです。オープンが待ち遠しいです(悠斗ママさん 28歳・新屋)
●子どもが歩けるようになってきたので、早く春になって暖かくなるといいなあ。のんびり家の前を散歩して心を穏やかに保ちたい(ちーちゃん 31歳・桜台)

元気にレポートします

積極的な性格を活かして、明るく元気な番組を届けられるようにがんばります。スポーツやダンスが好きなので、プロバスケットボールチームの秋田ノーザンハピネッツに関連した番組をレポートしてみたいです。



市政テレビ番組の市民リポーターを務める加賀屋縁さん(新屋)

一日も早い復興を

商店街として震災被災者のかたに何かできることはないか、という気持ちで義援募金に加わりました。被災地には知り合いもいて心配ですが、一日も早い復興を願っています。募金は23日(土)まで受け付けています。



通町・大町商店街の募金活動に参加した加茂谷福聡さん(通町カモヤ眼鏡店)

水道の迅速な復旧を

震災で破損した水道の復旧活動を行うため、秋田管工事業協同組合のみなさんと一緒に宮城県美里町に行ってきます。被災地のライフラインが一日でも早く復旧するよう、みんなで力を合わせ全力でがんばります。



災害復旧隊として美里町で水道復旧作業を行う佐藤泰雄さん(佐藤設備工業)

支援の思いをかたちに

JA新あきたでは、「震災被災者のかたを元気にしたい」という農家のみなさんの思いをかたちにするため、米などの支援物資を送りました。同じ東北の仲間である相馬市のみなさんに思いが届くことを願っています。



相馬市に米などの支援物資を提供したJA新あきた組合長の船木耕太郎さん

係からひとこと

震災直後、日本を応援する世界中の人たちの姿がテレビに映りました。その中で確かアジアのかただったと思います。1人の女性が折り鶴を作っている様子も流れました。折り鶴は食べることができないし、ガソリンの代わりにもならないけれど、日本から何千キロも離れた異国で、被災者の無事を祈りながら一生懸命に鶴を折ってくれている人がいる。その女性が折り鶴に込めた「思い」が被災地に届いたとしたら、何よりも強い支えになると思います。世界中の「思い」が被災地へ届きますように。(渉)



米や野菜などを 福島県相馬市に

3月29日、JA新あきたが提供してくれた無洗米やホウレンソウなどを積み込んだトラックが市農林部から福島県相馬市に向けて出発しました。物資の輸送は秋田県トラック協会が協力してくれました。



宮城県美里町の 復旧活動を支援

3月25日、宮城県美里町の水道復旧活動を支援するため、秋田管工事業協同組合のみなさん14人による災害復旧隊が市上下水道局を出発しました。現地では漏水か所の修理などの支援活動を行います。